

ずいそう

犬のいた人生

小野明子



今、世界中で、貧困・紛争・災害など悲しい出来事があちこちで起こっています。またコロナで自由に身動きも出来ず収束を願って日々頑張っている私達。大切な家族、仲間を守り、全ての人達が安心して平和に暮らせる世の中である為には、何が大切で何をしなければならないのか。弱いものがそこで犠牲にならない世の中であるためには・・・大変難しい問題ですが夢と希望を発信できる環境に早くなってほしいと思っているこの頃です。

人は辛い時、寂しい時、許容範囲を超えてしまうと体調を崩してしまいますが、話し相手や相談相手が居てくれたり、その原因を忘れられるほどの興味あるものがあれば乗り越えられると思うのですが…。

私の子供の頃からこれまでに、山あり谷あり様々な出来事がありました。どのように乗り越えてきたのか、ストレスは如何にして解消できたのか、この機会に思い返してみたいと思います。

小学校に入って間もない頃（昭和三十年）一匹の犬が行商のおばさんによって家族の一員になりました。「可愛がってくれるならあげるよ！」と異様に膨らんだ胸元から取り出されたのが我が家で初めて飼う事となる子犬。ダックスフンドの雑種で毛が長く緩いウエーブが掛かり、足が短く真っ黒で性格穏やか。今では信じられない事ですが放し飼いで近所の子供達、おじさんおばさん達にも可愛がられ毎日の日課が向う三軒両隣のお宅訪問。自由に町内を行き来していたのです。そんな環境ですから、いつの間にか、お腹が大きくなって…出産。生まれた子は日が経つにつれ、耳が聞こえ目が見えるようになり段々と可愛らしくなり、学校が終わると飛んで帰ってきては、親子のしぐさを見たり抱きしめたりと、何物にも代えがたい至福の時間を楽しんでいました。そして一番辛いのは子犬を手放す時。里親を見つける為に、弟と近所隣の友達と段ボール箱に子犬を入れて、町角で大事にしてくれそうな人達に「子犬いませんか！」と声をかけ、一匹一匹手渡します。暗くなって全匹貰われてからも返しに来る人がいないかどうか確認してから皆で帰ったものです。子犬のいなくなった母犬は子供を探して…そして諦めるまで本当に悲しげで…一晩中「クーン〜クウ

ン〜」と鳴く声が辛かったことが思い返されます。

このように犬が居たおかげで、友達とも多くの時間を通し、仲間の大切さを知る事が出来ましたし、犬からは人と同じように家族愛を感じ、また誰かが落ち込んだり泣いていると、静かに傍に寄り添う優しい心。何かを守ろうとするときの勇氣ある姿。どこか痛くとも癒されるまで我慢強く耐える精神。相手を決して裏切らない忠誠心など、何処か儒教の徳（知・仁・勇・謙・寛・信）に共通した卓越した優れた知性を身近に感じていました。そのように物心つく頃から犬のいた環境の中で、たとえ小さな生物や植物でも弱い立場の者を守るのは私達なのだと思いますし、時代背景もあったと思いますが、逆の立場で自分が落ち込んでいる時など、そばで心配し守ろうとしてくれる人達が居る事を思えば、前向きに一歩踏み出す勇氣を持つ事が大切と、辛い事は何時しか流せるようになれました。親や学校の先生に叱られたり、近所でいじめられた時など「まあいいか」と忘れてしまう逃げの戦法は今でも役に立って？います。

そんな訳で、生きてきた中での処世術は、我社の経営指針書の中の一つ最後に「徳とは人間性の源なり（知・仁・勇・謙・寛・信）」の文と簡単な説明を盛り込み、毎年、全社員と共有しています。

私は二十六歳で結婚し、子供が男三人。主人も犬の大好きな人で、夢は獣医さんか動物園で働く事。担当はオオカミ（なんで？）の担当。夢とは違って全然違う仕事を始めた訳ですが、仕事を社員に任せられるようになると、柴犬のブリーダーを始め、常時成犬が四〜五頭、その犬達の子が生まれるとしばらく賑やかになります。犬が欲しいと訪れる人。育った犬を見せに





来られるお客様方との楽しい犬談義だったり、ブリーダー仲間との全国の同業が育てている柴犬の見定め（交配の相手探し）の話だったり、展覧会（日本犬保存会主催）が近づくと散歩も気合が入り、筋肉隆々の犬に仕上がります。そんな生活は主人にとっては生き甲斐でもあり、忙しい中での活力剤、ストレス解消であったのかも知れません。

我が家で生まれた柴犬の感動話ですが、生まれて確か六十日位で里親に出し、十年以上も逢ってなかった年老いた犬が、飼い主と家に来られた時、門の近くで立ち止まり、周りを見回したかと思うと、奥で様子を見ていた私の元へ「ヨタヨタ」と私の足元に、すり寄りて来たのです。半分白内障で濁った眼で「会いたかった」と言わんばかりに、じっと見つめられたとき寒気を覚えるくらい感動し思わず抱きしめてしまいました。

また、鶏も他の動物と同じで、深い家族愛がある事を知りました。無料で雌のひよこを貰えるとの事で家族で一匹一匹、別の箱に入った四匹のひよこを貰い、家に帰り半分子供たちが怖がっていましたので、代わりに私が箱から出したのですが、その時からずっと付いて歩き、私に何かあるのを察知し特に些細な夫婦喧嘩の時にも中に立ちただかる鶏が居ました。そうなるとう本当に可愛いもので、思わず笑い転げるのでした。

生き物は、よく初めて目にした者を親と思うと言います。どんな生き物も家族愛が深く、だからこそ子孫を残し続けてこれたのだろうと思うと同時に動物を飼う事の責任の重大さに気付かされる瞬間でもありました。

私には弟が二人いますが上の弟に関しても、学校卒業後、全国展開の犬のメーカーの営業マンとして各家々に犬を届ける仕事をしていましたが会社が倒産。他の仕事も経験し、最後は店に生体を置くことなく注文を頂いてから「元気な子犬」をブリーダーから仕入れ、お客様にお渡しするペットショップを開店。家では数頭の犬種の違う犬に囲まれ、今も好きな犬と一緒に過ごし、犬第一の仕事ぶりからお客様からも信頼され、楽しそうに働いています。

そんな訳で私の廻りの家族はみんな「犬キチ」の部類に入り込んでいて、毎日犬に没頭し、犬に振り回され（?）、それでいて癒されてましたので、ある意味では羨ましい人生だな～とってしまいます。

現在、主人が亡くなって七年目、犬も亡くなり少し寂しい日常ですが、今日この頃、社員さんが自分で育てたメダカが大繁殖したので会社の二階のテラス（テーブルとベンチ、植物が少し置いてある）で、暖かくなったらメダカを飼いましょう！！と水槽やら必要なものを色々用意してくれています。この原稿が皆さんに見て貰える頃には、メダカが泳いでいる空間で多くの人たちと休憩したり、商談だったり、社員の子供さんが遊びに来たりと、何かと厳しい社会環境を忘れ、有意義な時を過ごせそうです！！小さなメダカでも、どんな動植物でも、大事に慈しむことで自分の心に大きな幸せ感を与えてくれる！！と思っています。とても楽しみです。

十四年ほど前にある大学教授の話の中で、愛の重要性が説かれていました。

全てのものとの関わり合いの中で、相手も自分も幸せを感じるには「愛」が重要です。愛の字を解体すると二つの字に分かれます。「心」を「受」ける。

相手の心を受け止め、見守り、信じる事が相手の「個性を伸ばし自分の存在意義を見つける」為に必要な事。そのような環境の中で育つことにより、感謝の心が芽生え皆に優しくなれるのです。それが本当の愛のカチですと…。

子供の頃から、犬と関わり、多くの人たちと過ごした日々は、素敵な人生だったと思います。これからも、みんなが明るく元気で幸せな未来であるために、まだまだやる事が一杯ありますので、日々学び続けて行きたいと思っています。

我社の会長（主人）の残していった社是は「これでいいのか」でした。「ちょっと違ったよね」と写真の前で反省の言葉を言っている私が居ます！！